

注3

大学番号：040

[平成30年度設置]

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

意見伺い

山梨大学大学院 医工農学総合教育部
統合応用生命科学専攻（博士課程）

注2

【意見伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人山梨大学
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	企画課
職名・氏名	イッパンシヨクイン 一般職員 ・ サイトウ ショウ 齋藤 将
電話番号	055-220-8014
（夜間）	055-220-8014
F A X	055-220-8799
e-mail	kikaku@yamanashi.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

医工農学総合教育部

＜統合応用生命科学専攻（博士課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	27
7. その他全般的事項	28

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 山梨大学

(2) 大学名

山梨大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒400-8510
山梨県甲府市武田4-4-37

〒409-3898
山梨県中央市下河東1110

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(シマダ シンジ) 島田 眞路 (平成27年4月1日)	(平成31年4月)	学長再任に伴う変更 (元) 平成31年4月1日
理事 (教学担当)	(ホリ テツオ) 堀 哲夫 (平成27年4月1日)	(ムラマツ トシオ) 村松 俊夫 (平成31年4月)	理事就任に伴う変更 (元) 平成31年4月1日
専攻長	(クロサワ ヒロシ) 黒澤 尋 (平成30年4月1日)	(オクダ トオル) 奥田 徹 (令和2年4月)	専攻長就任に伴う変更 (2) 令和2年4月1日
コース主任	(スズキ シュンジ) 鈴木 俊二 (平成30年4月1日)		
コース主任	(オオツカ トシヒサ) 大塚 稔久 (平成30年4月1日)		
コース主任	(キシガミ サトシ) 岸上 哲士 (平成30年4月1日)	(コウダ タカシ) 幸田 尚 (令和2年4月)	コース主任就任に伴う変更 (2) 令和2年4月1日

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください）。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
医工農学総合教育部 統合応用生命科学専攻 (博士課程) 博士(農学) 博士(生命医科学) 博士(生命工学)	農学関係 医学関係 工学関係	3年	10人	年次人	30人	生命環境学部 医学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	10人	人	10人	人	10人	人	(-)	(-)	1.23倍	-	
	(-)	[-]	(-)	[-]	(-)	[-]					
志願者数	11	(-)	13	1	12	(-)	(-)	(-)			
	(-)	[-]	(-)	[-]	(-)	[-]	(-)	(-)			
	[1]	[-]	[2]	[-]	[2]	[-]	[2]	[-]			
受験者数	11	(-)	13	1	12	(-)	(-)	(-)			
	(-)	[-]	(-)	[-]	(-)	[-]	(-)	(-)			
	[1]	[-]	[2]	[-]	[2]	[-]	[2]	[-]			
合格者数	11	(-)	13	1	12	(-)	(-)	(-)			
	(-)	[-]	(-)	[-]	(-)	[-]	(-)	(-)			
	[1]	[-]	[2]	[-]	[2]	[-]	[2]	[-]			
B 入学者数	11	(-)	13	1	12	(-)	(-)	(-)			
	(-)	[-]	(-)	[-]	(-)	[-]	(-)	(-)			
	[1]	[-]	[2]	[-]	[2]	[-]	[2]	[-]			
入学定員超過率 B/A	1.10		1.40		1.20						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外教で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内教で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	平成30年度		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	11 (-) (-) [1] [-]		13 (-) (-) [2] [-]	1 (-) (-) [-] [-]	12 (-) (-) [2] [-]	1 (-) (-) [-] [-]	
2年次			11 (-) (-) [1] [-]		13 (-) (-) [2] [-]		
3年次					11 (-) (-) [1] [-]		
4年次							
計	11 [1] (-)		25 [3] (-)		37 [5] (-)		

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	11 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	25 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	37 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{25} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{37} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

< 医工農学総合教育部 統合応用生命科学専攻（博士課程） >

(1) - ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	科学者倫理学	1前	1			1						4
	医工農総合特論	1後	1			2						4
	小計(2科目)	-										
専攻共通科目	統合応用生命科学特論	1前	1			5	3					
	ヘルスサイエンス特論	1後	1			4	4					
	小計(2科目)	-										
生命農学コース専門科目	発酵微生物学特論	1前		2		1	1					
	食品加工・栄養学特論	1前		2		2						
	食品成分解析学特論	1前		2		1	1					
	環境微生物学特論	1前		2		1						
	微生物分類学特論	1前		2		1						
	微生物利用工学特論	1前		2		1						
	植物機能開発学特論	1前		2		1						
	生命農学特別演習Ⅰ	1前	1			5	5		2			
	生命農学特別演習Ⅱ	1後	1			5	5		2			
	生命農学特別研究Ⅰ	1通	2			5	5		2			
	生命農学特別研究Ⅱ	2通	2			5	5		2			
小計(11科目)	-											
生命医科学コース専門科目(医学・看護学共通科目)	医療データ解析・臨床疫学特論Ⅰ	1前		1		1						1
	医療データ解析・臨床疫学特論Ⅱ	1後		1		1						1
	生命倫理学特論	1前		1		1						2
	神経科学特論	1前		2		4	2					2
	循環器生物学特論	1前		1		1						3
	腎病態医学特論	1前		1		1						2
	基礎腫瘍学特論	1後		1		1						3
	臨床腫瘍学特論	1後		1		1						3
医療情報学特論	1前		1		1						3	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	科学者倫理学	1前	1			1						4
	医工農総合特論	1後	1			2						3
	小計(2科目)	-										
専攻共通科目	統合応用生命科学特論	1前	1			5	3					
	ヘルスサイエンス特論	1後	1			4	3					1
	小計(2科目)	-										
生命農学コース専門科目	発酵微生物学特論	1前		2		1	1					
	食品加工・栄養学特論	1前		2		2						
	食品成分解析学特論	1前		2		1	1					
	環境微生物学特論(未開講)	1前		2		1						
	微生物分類学特論	1前		2		1						
	微生物利用工学特論	1前		2		1						
	植物機能開発学特論	1前		2		1						
	生命農学特別演習Ⅰ	1前	1			5	7					
	生命農学特別演習Ⅱ	1後	1			5	7					
	生命農学特別研究Ⅰ	1通	2			5	7					
	生命農学特別研究Ⅱ	2通	2			5	7					
小計(11科目)	-											
生命医科学コース専門科目(医学・看護学共通科目)	医療データ解析・臨床疫学特論Ⅰ	1前		1		1						1
	医療データ解析・臨床疫学特論Ⅱ	1後		1		1						1
	生命倫理学特論	1前		1		1						2
	神経科学特論	1前		2		4	2					2
	循環器生物学特論	1前		1		1						3
	腎病態医学特論	1前		1		1						1
	基礎腫瘍学特論	1後		1		1						3
	臨床腫瘍学特論	1後		1		1						3
医療情報学特論	1前		1		1						3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
生命医科学コース専門科目(生命医科学専門科目)	分子遺伝疫学特論	1前	2		1						
	神経薬理学特論	1前	2		1						
	分子神経化学特論	1前	2		1						
	高次神経機能学特論	1前	2		1						
	知覚・認知神経科学特論	1前	2		1						
	神経制御特論	1前	2		1						
	細胞生物学特論	1前	2		1						
	発生遺伝学特論	1前	2		1						
	細胞間コミュニケーション特論	1前	2		1						
	脳腫瘍医学特論	1前	2		1						
	呼吸器病態学特論	1前	2		1						
	数理科学特論	1前	2		1						
	応用医療統計学特論	1前	2		1						
	身体運動医学特論	1前	2		1						
社会心理学特論	1前	2		1							
生命医科学特別演習Ⅰ	1前	1		8	6						
生命医科学特別演習Ⅱ	1後	1		8	6						
生命医科学特別研究Ⅰ	1通	2		8	6						
生命医科学特別研究Ⅱ	2通	2		8	6						
小計(28科目)	-										
生命工学コース専門科目	応用発生工学特論	1前	2		1						
	発生エビジェネティクス特論	1前	2		1						
	細胞培養工学特論	1前	2		1						
	応用生体防御学特論	1前	2		1						
	臨床生殖医学特論	1前	2		1						
	生体超分子科学特論	1前	2		1						
	構造生命科学特論	1前	2		1						
	ゲノム科学特論	1前	2		1						1
	分子進化学特論	1前	2					1			
	応用生殖細胞工学特論	1前	2					1			
	生命工学特別演習Ⅰ	1前	1		3	4		1			
	生命工学特別演習Ⅱ	1後	1		3	4		1			
	生命工学特別研究Ⅰ	1通	2		3	4		1			
	生命工学特別研究Ⅱ	2通	2		3	4		1			
小計(14科目)	-										
関連科目	非平衡科学特論	1前	2								2
	高分子材料化学特論	1前	2								3
	生活健康学特論	1前	2								1
	国際環境技術特論	1前	1								3
小計(4科目)	-										
合計(61科目)	-										
卒業要件及び履修方法											
本専攻に3年以上在学し、大学院共通科目2単位、専攻共通科目2単位、専攻が開講するコース専門科目10単位以上(所属するコースの講義科目を4単位以上を含む)、合計14単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、かつ、博士論文の審査および最終試験に合格すること。 必修科目は、大学院共通科目2単位、専攻共通科目2単位、コース専門科目6単位の合計10単位である。											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
生命医科学コース専門科目(生命医科学専門科目)	分子遺伝疫学特論	1前	2		1						
	神経薬理学特論(未開講)	1前	2		1						
	分子神経化学特論(未開講)	1前	2		1						
	高次神経機能学特論(未開講)	1前	2		1						
	知覚・認知神経科学特論	1前	2		1						
	神経制御特論(未開講)	1前	2		1						
	細胞生物学特論(未開講)	1前	2		1						
	発生遺伝学特論(未開講)	1前	2		1						
	細胞間コミュニケーション特論	1前	2		1						
	脳腫瘍医学特論(未開講)	1前	2		1						
	呼吸器病態学特論(未開講)	1前	2		1						
	数理科学特論(未開講)	1前	2		1						
	応用医療統計学特論(未開講)	1前	2		1						
	身体運動医学特論(未開講)	1前	2		1						
社会心理学特論(未開講)	1前	2		1							
生命医科学特別演習Ⅰ	1前	1		8	6						
生命医科学特別演習Ⅱ	1後	1		8	6						
生命医科学特別研究Ⅰ	1通	2		8	6						
生命医科学特別研究Ⅱ	2通	2		8	6						
小計(28科目)	-										
生命工学コース専門科目	応用発生工学特論	1前	2		1						
	発生エビジェネティクス特論(未開講)	1前	2		1						
	細胞培養工学特論	1前	2		1						
	応用生体防御学特論	1前	2		1						
	臨床生殖医学特論	1前	2		1						1
	生体超分子科学特論	1前	2		1						
	構造生命科学特論	1前	2		1						
	ゲノム科学特論	1前	2		1			2			
	分子進化学特論	1前	2						1		
	応用生殖細胞工学特論	1前	2						1		
	生命工学特別演習Ⅰ	1前	1		3	4		4	3	1	
	生命工学特別演習Ⅱ	1後	1		3	4		4	3	1	
	生命工学特別研究Ⅰ	1通	2		3	4		4	3	1	
	生命工学特別研究Ⅱ	2通	2		3	4		4	3	1	
小計(14科目)	-										
関連科目	非平衡科学特論	1前	2								2
	高分子材料化学特論	1後	2								2
	生活健康学特論	1前	2								1
	国際環境技術特論	1前	2								4
小計(4科目)	-										
合計(61科目)	-										
卒業要件及び履修方法											
本専攻に3年以上在学し、大学院共通科目2単位、専攻共通科目2単位、専攻が開講するコース専門科目10単位以上(所属するコースの講義科目を4単位以上を含む)、合計14単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、かつ、博士論文の審査および最終試験に合格すること。 必修科目は、大学院共通科目2単位、専攻共通科目2単位、コース専門科目6単位の合計10単位である。											

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	科学者倫理学	1前	1			1						4
	医工農総合特論	1後	1			2						4
	小計(2科目)	-										
専攻共通科目	統合応用生命科学特論	1前	1			5	3					
	ヘルスサイエンス特論	1後	1			4	4					
	小計(2科目)											
生命農学コース専門科目	発酵微生物学特論	1前	2			1	1					
	食品加工・栄養学特論	1前	2			2						
	食品成分解析学特論	1前	2			1	1					
	環境微生物学特論	1前	2			1						
	微生物分類学特論(未開講)	1前	2			1						
	微生物利用工学特論(未開講)	1前	2			1						
	植物機能開発学特論	1前	2			1						
	生命農学特別演習Ⅰ	1前	1			5	5		2			
	生命農学特別演習Ⅱ	1後	1			5	5		2			
	生命農学特別研究Ⅰ	1通	2			5	5		2			
	生命農学特別研究Ⅱ(未開講)	2通	2			5	5		2			
小計(11科目)	-											
生命医科学コース専門科目(医学・看護学共通科目)	医療データ解析・臨床疫学特論Ⅰ	1前	1			1						1
	医療データ解析・臨床疫学特論Ⅱ	1後	1			1						1
	生命倫理学特論	1前	1			1						2
	神経科学特論	1前	2			4	2					2
	循環器生物学特論	1前	1			1						3
	腎病態医学特論	1前	1			1						2
	基礎腫瘍学特論	1後	1			1						3
	臨床腫瘍学特論	1後	1			1						3
医療情報学特論	1前	1			1						3	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	科学者倫理学	1前	1			1						4
	医工農総合特論	1後	1			2						4
	小計(2科目)	-										
専攻共通科目	統合応用生命科学特論	1前	1			5	3					
	ヘルスサイエンス特論	1後	1			4	2					2
	小計(2科目)											
生命農学コース専門科目	発酵微生物学特論(未開講)	1前	2			1	1					
	食品加工・栄養学特論	1前	2			2						
	食品成分解析学特論(未開講)	1前	2			1	1					
	環境微生物学特論	1前	2			1						
	微生物分類学特論	1前	2			1						
	微生物利用工学特論	1前	2			1						
	植物機能開発学特論	1前	2			1						
	生命農学特別演習Ⅰ	1前	1			5	7	6				
	生命農学特別演習Ⅱ	1後	1			5	7	6				
	生命農学特別研究Ⅰ	1通	2			5	7	6				
	生命農学特別研究Ⅱ	2通	2			5	7	6				
小計(11科目)	-											
生命医科学コース専門科目(医学・看護学共通科目)	医療データ解析・臨床疫学特論Ⅰ	1前	1			1						1
	医療データ解析・臨床疫学特論Ⅱ	1後	1			1						1
	生命倫理学特論	1前	1			1						2
	神経科学特論	1前	2			4	2					2
	循環器生物学特論	1前	1			1						3
	腎病態医学特論	1前	1			1						1
	基礎腫瘍学特論	1後	1			1						3
	臨床腫瘍学特論	1後	1			1						3
医療情報学特論	1前	1			1						3	

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
生命医科学コース専門科目(生命医科学専門科目)	分子遺伝疫学特論	1前	2		1						
	神経薬理学特論(未開講)	1前	2		1						
	分子神経化学特論(未開講)	1前	2		1						
	高次神経機能学特論(未開講)	1前	2		1						
	知覚・認知神経科学特論(未開講)	1前	2		1						
	神経制御特論(未開講)	1前	2			1					
	細胞生物学特論(未開講)	1前	2			1					
	発生遺伝学特論(未開講)	1前	2			1					
	細胞間コミュニケーション特論	1前	2			1					
	脳腫瘍医学特論(未開講)	1前	2			1					
	呼吸器病態学特論(未開講)	1前	2			1					
	数理科学特論(未開講)	1前	2			1					
	応用医療統計学特論(未開講)	1前	2			1					
	身体運動医学科学特論	1前	2			1					
社会心理学特論(未開講)	1前	2			1						
生命医科学特別演習Ⅰ	1前	1			8	6					
生命医科学特別演習Ⅱ	1後	1			8	6					
生命医科学特別研究Ⅰ	1通	2			8	6					
生命医科学特別研究Ⅱ(未開講)	2通	2			8	6					
小計(28科目)	-										
生命工学コース専門科目	応用発生工学特論	1前	2		1						
	発生エビジェネティクス特論	1前	2		1						
	細胞培養工学特論	1前	2		1						
	応用生体防御学特論(未開講)	1前	2			1					
	臨床生殖医学特論(未開講)	1前	2			1					
	生体超分子科学特論(未開講)	1前	2			1					
	構造生命科学特論(未開講)	1前	2			1					
	ゲノム科学特論	1前	2			1					1
	分子進化学特論(未開講)	1前	2					1			
	応用生殖細胞工学特論	1前	2					1			
	生命工学特別演習Ⅰ	1前	1			3	4		1		
	生命工学特別演習Ⅱ	1後	1			3	4		1		
	生命工学特別研究Ⅰ	1通	2			3	4		1		
	生命工学特別研究Ⅱ(未開講)	2通	2			3	4		1		
小計(14科目)	-										
関連科目	非平衡科学特論	1前	2								2
	高分子材料化学特論	1後	2								3
	生活健康学特論	1前	2								1
	国際環境技術特論	1前	2								3
小計(4科目)	-										
合計(61科目)	-										
卒業要件及び履修方法											
本専攻に3年以上在学し、大学院共通科目2単位、専攻共通科目2単位、専攻が開講するコース専門科目10単位以上(所属するコースの講義科目を4単位以上を含む)、合計14単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、かつ、博士論文の審査および最終試験に合格すること。 必修科目は、大学院共通科目2単位、専攻共通科目2単位、コース専門科目6単位の合計10単位である。											

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
生命医科学コース専門科目(生命医科学専門科目)	分子遺伝疫学特論	1前	2		1						
	神経薬理学特論(未開講)	1前	2		1						
	分子神経化学特論(未開講)	1前	2		1						
	高次神経機能学特論(未開講)	1前	2		1						
	知覚・認知神経科学特論(未開講)	1前	2		1						
	神経制御特論(未開講)	1前	2			1					
	細胞生物学特論(未開講)	1前	2			1					
	発生遺伝学特論(未開講)	1前	2			1					
	細胞間コミュニケーション特論	1前	2			1					
	脳腫瘍医学特論(未開講)	1前	2			1					
	呼吸器病態学特論(未開講)	1前	2			1					
	数理科学特論(未開講)	1前	2			1					
	応用医療統計学特論(未開講)	1前	2			1					
	身体運動医学科学特論	1前	2			1					
社会心理学特論	1前	2			1						
生命医科学特別演習Ⅰ	1前	1			8	6					
生命医科学特別演習Ⅱ	1後	1			8	6					
生命医科学特別研究Ⅰ	1通	2			8	6					
生命医科学特別研究Ⅱ	2通	2			8	6					
小計(28科目)	-										
生命工学コース専門科目	応用発生工学特論	1前	2		1						
	発生エビジェネティクス特論	1前	2		1						
	細胞培養工学特論	1前	2		1						
	応用生体防御学特論(未開講)	1前	2			1					1
	臨床生殖医学特論	1前	2			1					
	生体超分子科学特論(未開講)	1前	2			1					
	構造生命科学特論	1前	2			1					
	ゲノム科学特論	1前	2			2					
	分子進化学特論(未開講)	1前	2					1			
	応用生殖細胞工学特論	1前	2					1			
	生命工学特別演習Ⅰ	1前	1			4	3		1		
	生命工学特別演習Ⅱ	1後	1			4	3		1		
	生命工学特別研究Ⅰ	1通	2			4	3		1		
	生命工学特別研究Ⅱ	2通	2			4	3		1		
小計(14科目)	-										
関連科目	非平衡科学特論	1前	2								2
	高分子材料化学特論	1後	2								3
	生活健康学特論	1前	2								1
	国際環境技術特論	1前	2								3
小計(4科目)	-										
合計(61科目)	-										
卒業要件及び履修方法											
本専攻に3年以上在学し、大学院共通科目2単位、専攻共通科目2単位、専攻が開講するコース専門科目10単位以上(所属するコースの講義科目を4単位以上を含む)、合計14単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、かつ、博士論文の審査および最終試験に合格すること。 必修科目は、大学院共通科目2単位、専攻共通科目2単位、コース専門科目6単位の合計10単位である。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・教育効果を高めること及び10月入学者の教育の充実を図るため、以下の科目の配当年次を見直した。
高分子材料化学特論：「1前」から「1後」に変更
- ・教育内容の充実を図るため、「国際環境技術特論」の単位数を「1単位」から「2単位」に変更。

【令和元年度】

- ・専任教員辞職により、「ヘルスサイエンス特論」の専任教員等の配置を「教授4、准教授4」から「教授4、准教授3、兼任1」に変更。
- ・専任教員就任及び昇任により、「生命農学特別演習Ⅰ」「生命農学特別演習Ⅱ」「生命農学特別研究Ⅰ」「生命農学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授5、准教授5、助教2」から「教授6、准教授7」に変更。
- ・専任教員辞職により、「応用生体防御学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「兼任1」に変更。
- ・専任教員就任により、「ゲノム科学特論」の専任教員等の配置を「教授1、兼任1」から「教授2」に変更。
- ・専任教員就任及び辞職により、「生命工学特別演習Ⅰ」「生命工学特別演習Ⅱ」「生命工学特別研究Ⅰ」「生命工学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授3、准教授4、助教1」から「教授4、准教授3、助教1」に変更。

【令和2年度】

- ・専任教員定年退職により、「生命農学特別演習Ⅰ」「生命農学特別演習Ⅱ」「生命農学特別研究Ⅰ」「生命農学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授6、准教授7」から「教授5、准教授7」に変更。
- ・兼任教員辞職により、「腎病態医学特論」の専任教員等の配置を「准教授1、兼任2」から「准教授1、兼任1」に変更。
- ・専任教員就任により、「応用生体防御学特論」の専任教員等の配置を「兼任1」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員辞職により、「臨床生殖医学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「兼任1」に変更。
- ・兼任教員定年退職により、「高分子材料化学特論」の専任教員等の配置を「兼任3」から「兼任2」に変更。
- ・兼任教員の就任辞退及び研究教育拡充により、「国際環境技術特論」の専任教員等の配置を「兼任3」から「兼任・兼任4」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
16 科目	45 科目	0 科目	61 科目	16 科目 []	45 科目 []	0 科目 []	61 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{61} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	土地の購入及び売却の ため(2) 駐車場の新設及び廃 止、土地売却のため (元)		
	校 舎 敷 地	242,184㎡ 243,541㎡	0㎡	0㎡	242,184㎡ 243,541㎡			
	運 動 場 用 地	73,302㎡	0㎡	0㎡	73,302㎡			
	小 計	315,486㎡ 316,843㎡	0㎡	0㎡	315,486㎡ 316,843㎡			
	そ の 他	253,792㎡ 252,832㎡ 252,708㎡	0㎡	0㎡	253,792㎡ 252,832㎡ 252,708㎡			
	合 計	569,278㎡ 568,318㎡ 569,551㎡	0㎡	0㎡	569,278㎡ 568,318㎡ 569,551㎡			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	施設の新設及び面積修 正のため(元)		
		133,563㎡ 132,992㎡ (133,563㎡) (132,992㎡)	0㎡	0㎡	133,563㎡ 132,992㎡ (133,563㎡) (132,992㎡)			
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	用途変更のため(元・ 2)	
		69室 70室 111室	51室 53室 28室	152室 202室	4室 7室 (補助職員 人)	0室 1室 (補助職員 人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		室名称変更のため (元・2)	
		医工農学総合教育部 統合応用生命科学専攻(博士課程)			49 55 60 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	○図書：購入数が廃棄 数を上回ったため (2) ○学術雑誌・電子 ジャーナル契約パッ ッケージの変更(増加) のため(2) ○図書：蔵書の整理に より、廃棄数が購入数 を上回ったため(元) ○学術雑誌・電子 ジャーナル：購読中 止・廃棄等による減少 及びH31.4月より電子 ジャーナルパッケージ の追加のため(元) ○視聴覚資料：新規購 入のため(元・2) ○機械・器具：更新・ 廃棄などの設備整理の ため(元・2)
	統合応用 生命科学専攻 (博士課程)	563,780 [166,079] 560,339 [166,154] 564,362 [167,701] (563,780 [166,079]) (560,339 [166,154]) (564,362 [167,701])	42,746 [33,221] 41,777 [32,318] 25,224 [15,769] (42,746 [33,221]) (41,777 [32,318]) (25,224 [15,769])	29,398 [29,398] 28,520 [28,520] 11,986 [11,985] (29,398 [29,398]) (28,520 [28,520]) (11,986 [11,985])	5,073 5,014 4,972 (5,073) (5,014) (4,972)	8,034 7,854 8,217 (8,034) (7,854) (8,217)	14 (14)	
	計	563,780 [166,079] 560,339 [166,154] 564,362 [167,701] (563,780 [166,079]) (560,339 [166,154]) (564,362 [167,701])	42,746 [33,221] 41,777 [32,318] 25,224 [15,769] (42,746 [33,221]) (41,777 [32,318]) (25,224 [15,769])	29,398 [29,398] 28,520 [28,520] 11,986 [11,985] (29,398 [29,398]) (28,520 [28,520]) (11,986 [11,985])	5,073 5,014 4,972 (5,073) (5,014) (4,972)	8,034 7,854 8,217 (8,034) (7,854) (8,217)	14 (14)	
(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数				
		7,055㎡	523	576,445				
(7) 体 育 館		面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					
		2,743㎡	野球場2面 テニスコート17面		小体育館、武道場、弓道場、 プールほか			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地に別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	山梨大学										備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度		
教育学部											
学校教育課程	4	125	-	500	学士(教育)	1.05	1.07	-	平成10	山梨県甲府市武田4-4-37	
医学部											
医学科	6	125	-	750	学士(医学)	1.00	1.00	令和2	昭和55	山梨県中央市下河東1110	
看護学科	4	60	-	240	学士(看護学)	0.92	1.00	-	平成7	山梨県中央市下河東1110	
工学部											
機械工学科	4	55	3年次 10	240	学士(工学)	0.98	0.96	-	平成24	山梨県甲府市武田4-3-11	
ロボット工学科	4	55	-	220	学士(工学)	1.02	1.07	-	平成24	山梨県甲府市武田4-3-11	令和2年度より学科名称変更
電気電子工学科	4	55	3年次 5	230	学士(工学)	1.01	0.98	-	平成24	山梨県甲府市武田4-3-11	
コンピュータ理工学科	4	55	3年次 5	230	学士(工学)	0.99	0.98	-	平成24	山梨県甲府市武田4-3-11	
土木環境工学科	4	55	-	220	学士(工学)	1.06	1.07	-	平成24	山梨県甲府市武田4-3-11	
応用化学科	4	55	-	220	学士(工学)	1.02	0.98	-	平成24	山梨県甲府市武田4-3-11	
先端材料理工学科	4	35	-	140	学士(工学)	1.05	1.00	-	平成24	山梨県甲府市武田4-3-11	
生命環境学部											
生命工学科	4	35	-	140	学士(生命工学)	1.02	1.05	-	平成24	山梨県甲府市武田4-4-37	
地域食物科学科	4	37	-	148	学士(農学)	1.00	0.97	-	平成24	山梨県甲府市武田4-4-37	
環境科学科	4	30	-	120	学士(環境科学)	1.05	1.06	-	平成24	山梨県甲府市武田4-4-37	
地域社会システム学科	4	48	-	192	学士(社会科学)	1.01	0.97	-	平成24	山梨県甲府市武田4-4-37	
大学全体	-	825	20	3,590	-	-	1.01	-	-	-	

大学の名称	山梨大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
教育学研究科											
教育実践創成専攻	2	38	-	76	教職修士(専門職)	0.98	1.05	-	平成22	山梨県甲府市武田4-4-37	令和元年度より入学定員14人→38人
医工農学総合教育部											
【修士課程】											
生命医科学専攻	2	10	-	20	修士(医科学)	1.30	1.60	-	平成28	山梨県中央市下河東1110	
看護学専攻	2	14	-	28	修士(看護学)	0.60	0.57	-	平成28	山梨県中央市下河東1110	
工学専攻	2	181	-	362	修士(工学)	0.88	0.81	-	平成28	山梨県甲府市武田4-3-11	
生命環境学専攻	2	45	-	90	修士(農学) 修士(学術)	0.95	0.86	-	平成28	山梨県甲府市武田4-4-37	
【博士課程】											
医学専攻	4	20	-	80	博士(医学)	1.40	1.35	-	平成30	山梨県中央市下河東1110	
工学専攻	3	23	-	69	博士(工学) 博士(学術)	0.96	0.39	-	平成30	山梨県甲府市武田4-3-11	
統合応用生命科学専攻	3	10	-	30	博士(農学) 博士(生命医科学) 博士(生命工学)	1.23	1.20	-	平成30	山梨県甲府市武田4-4-37 及び 山梨県中央市下河東1110	
ヒューマンヘルスケア学専攻	3	4	-	12	博士(看護学)	0.91	1.00	-	平成15	山梨県中央市下河東1110	
先進医療科学専攻	4	-	-	-	博士(医学)	1.23	-	-	平成15	山梨県中央市下河東1110	平成30年度より学生募集停止
生体制御学専攻	4	-	-	-	博士(医学)	0.40	-	-	平成15	山梨県中央市下河東1110	平成30年度より学生募集停止
大学院全体	-	345	-	767	-	-	0.98	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<医工農学総合教育部 統合応用生命科学専攻（博士課程）>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	谷本 守正 <平成30年4月> 博士(農学)	専	教授	谷本 守正 <平成30年4月> 博士(農学)	専	教授	谷本 守正 <平成30年4月> 博士(農学)	専	教授	谷本 守正 <平成30年4月> 博士(農学)
		食品加工・栄養学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			食品加工・栄養学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			食品加工・栄養学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			食品加工・栄養学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ
専	教授	柳田 藤寿 <平成30年4月> 農学博士	専	教授	柳田 藤寿 <平成30年4月> 農学博士	専	教授	柳田 藤寿 <平成30年4月> 農学博士	専	教授	柳田 藤寿 <平成30年4月> 農学博士
		ヘルスサイエンス特論 発酵微生物学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			ヘルスサイエンス特論 発酵微生物学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			ヘルスサイエンス特論 発酵微生物学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			ヘルスサイエンス特論 発酵微生物学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ
専	教授	奥田 徹 <平成30年4月> 博士(農学)	専	教授	奥田 徹 <平成30年4月> 博士(農学)	専	教授	奥田 徹 <平成30年4月> 博士(農学)	専	教授	奥田 徹 <平成30年4月> 博士(農学)
		統合応用生命科学特論 食品成分解析学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			統合応用生命科学特論 食品成分解析学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			統合応用生命科学特論 食品成分解析学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			統合応用生命科学特論 食品成分解析学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ
専	教授	鈴木 俊二 <平成30年4月> 博士(学術)	専	教授	鈴木 俊二 <平成30年4月> 博士(学術)	専	教授	鈴木 俊二 <平成30年4月> 博士(学術)	専	教授	鈴木 俊二 <平成30年4月> 博士(学術)
		植物機能開発学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			植物機能開発学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			植物機能開発学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			植物機能開発学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ
専	教授	望月 和樹 <平成30年4月> 博士(食品栄養科学)	専	教授	望月 和樹 <平成30年4月> 博士(食品栄養科学)	専	教授	望月 和樹 <平成30年4月> 博士(食品栄養科学)	専	教授	望月 和樹 <平成30年4月> 博士(食品栄養科学)
		ヘルスサイエンス特論 食品加工・栄養学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			ヘルスサイエンス特論 食品加工・栄養学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			ヘルスサイエンス特論 食品加工・栄養学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			ヘルスサイエンス特論 食品加工・栄養学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ
専	准教授	岸本 宗和 <平成30年4月> 博士(農学)	専	准教授	岸本 宗和 <平成30年4月> 博士(農学)	専	准教授	岸本 宗和 <平成30年4月> 博士(農学)	専	准教授	岸本 宗和 <平成30年4月> 博士(農学)
		発酵微生物学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			発酵微生物学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			発酵微生物学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			発酵微生物学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ
専	准教授	大槻 隆司 <平成30年4月> 博士(工学)	専	准教授	大槻 隆司 <平成30年4月> 博士(工学)	専	准教授	大槻 隆司 <平成30年4月> 博士(工学)	専	准教授	大槻 隆司 <平成30年4月> 博士(工学)
		微生物利用工学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			微生物利用工学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			微生物利用工学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ			微生物利用工学特論 生命農学特別演習Ⅰ 生命農学特別演習Ⅱ 生命農学特別研究Ⅰ 生命農学特別研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	神 沼 修 <平成30年4月> 博士(獣医学)
		ヘルスサイエンス特論 応用生体防御学特論 生命工学特別演習Ⅰ 生命工学特別演習Ⅱ 生命工学特別研究Ⅰ 生命工学特別研究Ⅱ
専	准教授	新 森 英 之 <平成30年4月> 博士(工学)
		統合応用生命科学特論 生体超分子科学特論 生命工学特別演習Ⅰ 生命工学特別演習Ⅱ 生命工学特別研究Ⅰ 生命工学特別研究Ⅱ
専	准教授	大 山 拓 次 <平成30年4月> 博士(農学)
		構造生命科学特論 生命工学特別演習Ⅰ 生命工学特別演習Ⅱ 生命工学特別研究Ⅰ 生命工学特別研究Ⅱ
専	助教	若 山 清 香 <平成30年4月> 博士(農学)
		応用生殖細胞工学特論
専	助教	川 上 隆 史 <平成30年4月> 博士(工学)
		分子進化学特論 生命工学特別演習Ⅰ 生命工学特別演習Ⅱ 生命工学特別研究Ⅰ 生命工学特別研究Ⅱ
兼任	教授(副学長)	岩 崎 甫 <平成30年4月> 医学博士
		科学者倫理学 医療情報学特論
兼任	教授(副学長)	杉 山 俊 幸 <平成30年4月> 工学博士
		科学者倫理学
兼任	教授	鈴 木 章 泰 <平成30年4月> 理学博士
		高分子材料化学特論
兼任	教授(副学長)	早 川 正 幸 <平成30年4月> 博士(農学)
		科学者倫理学 医工農総合特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	神 沼 修 <平成30年4月> 博士(獣医学)
		ヘルスサイエンス特論 応用生体防御学特論 生命工学特別演習Ⅰ 生命工学特別演習Ⅱ 生命工学特別研究Ⅰ 生命工学特別研究Ⅱ
専	准教授	新 森 英 之 <平成30年4月> 博士(工学)
		統合応用生命科学特論 生体超分子科学特論 生命工学特別演習Ⅰ 生命工学特別演習Ⅱ 生命工学特別研究Ⅰ 生命工学特別研究Ⅱ
専	准教授	大 山 拓 次 <平成30年4月> 博士(農学)
		構造生命科学特論 生命工学特別演習Ⅰ 生命工学特別演習Ⅱ 生命工学特別研究Ⅰ 生命工学特別研究Ⅱ
専	助教	若 山 清 香 <平成30年4月> 博士(農学)
		応用生殖細胞工学特論
専	助教	川 上 隆 史 <平成30年4月> 博士(工学)
		分子進化学特論 生命工学特別演習Ⅰ 生命工学特別演習Ⅱ 生命工学特別研究Ⅰ 生命工学特別研究Ⅱ
兼任	教授(副学長)	岩 崎 甫 <平成30年4月> 医学博士
		科学者倫理学 医療情報学特論
兼任	教授(副学長)	杉 山 俊 幸 <平成30年4月> 工学博士
		科学者倫理学
兼任	教授	鈴 木 章 泰 <平成30年4月> 理学博士
		高分子材料化学特論
兼任	教授(副学長)	早 川 正 幸 <平成30年4月> 博士(農学)
		科学者倫理学 医工農総合特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	新 森 英 之 <平成30年4月> 博士(工学)
		統合応用生命科学特論 生体超分子科学特論 生命工学特別演習Ⅰ 生命工学特別演習Ⅱ 生命工学特別研究Ⅰ 生命工学特別研究Ⅱ
専	准教授	大 山 拓 次 <平成30年4月> 博士(農学)
		構造生命科学特論 生命工学特別演習Ⅰ 生命工学特別演習Ⅱ 生命工学特別研究Ⅰ 生命工学特別研究Ⅱ
専	助教	若 山 清 香 <平成30年4月> 博士(農学)
		応用生殖細胞工学特論
専	助教	川 上 隆 史 <平成30年4月> 博士(工学)
		分子進化学特論 生命工学特別演習Ⅰ 生命工学特別演習Ⅱ 生命工学特別研究Ⅰ 生命工学特別研究Ⅱ
兼任	教授(副学長)	岩 崎 甫 <平成30年4月> 医学博士
		科学者倫理学 医療情報学特論
兼任	教授(副学長)	杉 山 俊 幸 <平成30年4月> 工学博士
		科学者倫理学
兼任	教授	鈴 木 章 泰 <平成30年4月> 理学博士
		高分子材料化学特論
兼任	教授(副学長)	早 川 正 幸 <平成30年4月> 博士(農学)
		科学者倫理学 医工農総合特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	新 森 英 之 <平成30年4月> 博士(工学)
		統合応用生命科学特論 生体超分子科学特論 生命工学特別演習Ⅰ 生命工学特別演習Ⅱ 生命工学特別研究Ⅰ 生命工学特別研究Ⅱ
専	准教授	大 山 拓 次 <平成30年4月> 博士(農学)
		構造生命科学特論 生命工学特別演習Ⅰ 生命工学特別演習Ⅱ 生命工学特別研究Ⅰ 生命工学特別研究Ⅱ
専	准教授	升 井 伸 治 <令和2年4月> 博士(理学)
		ヘルスサイエンス特論 応用生体防御学特論 生命工学特別演習Ⅰ 生命工学特別演習Ⅱ 生命工学特別研究Ⅰ 生命工学特別研究Ⅱ
専	助教	若 山 清 香 <平成30年4月> 博士(農学)
		応用生殖細胞工学特論
専	助教	川 上 隆 史 <平成30年4月> 博士(工学)
		分子進化学特論 生命工学特別演習Ⅰ 生命工学特別演習Ⅱ 生命工学特別研究Ⅰ 生命工学特別研究Ⅱ
兼任	教授(副学長)	岩 崎 甫 <平成30年4月> 医学博士
		科学者倫理学 医療情報学特論
兼任	教授(副学長)	杉 山 俊 幸 <平成30年4月> 工学博士
		科学者倫理学
兼任	教授(副学長)	早 川 正 幸 <平成30年4月> 博士(農学)
		科学者倫理学 医工農総合特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名
兼任	教授(副学長)	武田正之 <平成30年4月> 医学博士	兼任	武田正之 <平成30年4月> 医学博士	兼任	武田正之 <平成30年4月> 医学博士	兼任	武田正之 <平成30年4月> 医学博士
		科学者倫理学		科学者倫理学		科学者倫理学		科学者倫理学
兼任	教授	豊木博泰 <平成30年4月> 工学博士	兼任	豊木博泰 <平成30年4月> 工学博士	兼任	豊木博泰 <平成30年4月> 工学博士	兼任	豊木博泰 <平成30年4月> 工学博士
		医工農総合特論 非平衡科学特論		医工農総合特論 非平衡科学特論		医工農総合特論 非平衡科学特論		医工農総合特論 非平衡科学特論
兼任	教授	風間ふたば <平成30年4月> 工学博士	兼任	風間ふたば <平成30年4月> 工学博士	兼任	風間ふたば <平成30年4月> 工学博士	兼任	風間ふたば <平成30年4月> 工学博士
		国際環境技術特論		国際環境技術特論		国際環境技術特論		国際環境技術特論
兼任	教授	佐藤 弥 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	佐藤 弥 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	佐藤 弥 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	佐藤 弥 <平成30年4月> 博士(医学)
		医療情報学特論		医療情報学特論		医療情報学特論		医療情報学特論
兼任	教授	範江林 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	範江林 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	範江林 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	範江林 <平成30年4月> 博士(医学)
		循環器生物学特論		循環器生物学特論		循環器生物学特論		循環器生物学特論
兼任	教授	宮澤恵二 <平成30年4月> 薬学博士	兼任	宮澤恵二 <平成30年4月> 薬学博士	兼任	宮澤恵二 <平成30年4月> 薬学博士	兼任	宮澤恵二 <平成30年4月> 薬学博士
		基礎腫瘍学特論		基礎腫瘍学特論		基礎腫瘍学特論		基礎腫瘍学特論
兼任	教授	中尾篤人 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	中尾篤人 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	中尾篤人 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	中尾篤人 <平成30年4月> 博士(医学)
		医工農総合特論		医工農総合特論		医工農総合特論		医工農総合特論
兼任	教授	桐戸敬太 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	桐戸敬太 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	桐戸敬太 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	桐戸敬太 <平成30年4月> 博士(医学)
		臨床腫瘍学特論		臨床腫瘍学特論		臨床腫瘍学特論		臨床腫瘍学特論
兼任	教授	宮村季浩 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	宮村季浩 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	宮村季浩 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	宮村季浩 <平成30年4月> 博士(医学)
		生活健康科特論		生活健康学特論		生活健康学特論		生活健康学特論
兼任	教授	齋藤正夫 <平成30年4月> 博士(歯学)	兼任	齋藤正夫 <平成30年4月> 博士(歯学)	兼任	齋藤正夫 <平成30年4月> 博士(歯学)	兼任	齋藤正夫 <平成30年4月> 博士(歯学)
		基礎腫瘍学特論		基礎腫瘍学特論		基礎腫瘍学特論		基礎腫瘍学特論
兼任	教授	北村健一郎 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	北村健一郎 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任		兼任	
		腎病態医学特論		腎病態医学特論				

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	西田 継 <平成30年4月> 博士(工学)	兼任	教授	西田 継 <平成30年4月> 博士(工学)	兼任	教授	西田 継 <平成30年4月> 博士(工学)	兼任	教授	西田 継 <平成30年4月> 博士(工学)
		国際環境技術特論			国際環境技術特論			国際環境技術特論			
兼任	教授	井上 克枝 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	井上 克枝 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	井上 克枝 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	井上 克枝 <平成30年4月> 博士(医学)
		循環器生物学特論			循環器生物学特論			循環器生物学特論			
兼任	教授	竹田 扇 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	竹田 扇 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	竹田 扇 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	竹田 扇 <平成30年4月> 博士(医学)
		神経科学特論			神経科学特論			神経科学特論			
兼任	教授	奥崎 秀典 <平成30年4月> 博士(理学)	兼任	教授	奥崎 秀典 <平成30年4月> 博士(理学)	兼任	教授	奥崎 秀典 <平成30年4月> 博士(理学)	兼任	教授	奥崎 秀典 <平成30年4月> 博士(理学)
		高分子材料化学特論			高分子材料化学特論			高分子材料化学特論			
兼任	教授	小田 賢幸 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	小田 賢幸 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	小田 賢幸 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	小田 賢幸 <平成30年4月> 博士(医学)
		神経科学特論			神経科学特論			神経科学特論			
兼任	准教授	筒井 宏彰 <平成30年4月> 理学士									
		医工農総合特論									
兼任	准教授	端 晶彦 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	准教授	端 晶彦 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	准教授	端 晶彦 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	准教授	端 晶彦 <平成30年4月> 博士(医学)
		臨床腫瘍学特論			臨床腫瘍学特論			臨床腫瘍学特論			
兼任	准教授	鈴木 章司 <平成30年4月> 医学博士	兼任	教授	鈴木 章司 <平成30年4月> 医学博士	兼任	教授	鈴木 章司 <平成30年4月> 医学博士	兼任	教授	鈴木 章司 <平成30年4月> 医学博士
		循環器生物学特論			循環器生物学特論			循環器生物学特論			
兼任	准教授	布村 明彦 <平成30年4月> 医学博士	兼任	准教授	布村 明彦 <平成30年4月> 医学博士	兼任	准教授		兼任	准教授	
		生命倫理学特論			生命倫理学特論						
兼任	准教授	柏木 賢治 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	准教授	柏木 賢治 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	柏木 賢治 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	柏木 賢治 <平成30年4月> 博士(医学)
		医療情報学特論			医療情報学特論			医療情報学特論			
兼任	准教授	犬飼 岳史 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	准教授	犬飼 岳史 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	犬飼 岳史 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	犬飼 岳史 <平成30年4月> 博士(医学)
		臨床腫瘍学特論			臨床腫瘍学特論			臨床腫瘍学特論			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	三井 貴彦 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	准教授	三井 貴彦 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	准教授	三井 貴彦 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	三井 貴彦 <平成30年4月> 博士(医学)
		腎病態医学特論			腎病態医学特論			腎病態医学特論			腎病態医学特論
兼任	准教授	石平 博 <平成30年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	石平 博 <平成30年4月> 博士(工学)	兼任	教授	石平 博 <平成30年4月> 博士(工学)	兼任	教授	石平 博 <平成30年4月> 博士(工学)
		国際環境技術特論			国際環境技術特論			国際環境技術特論			国際環境技術特論
兼任	准教授	近藤 哲夫 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	准教授	近藤 哲夫 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	近藤 哲夫 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	教授	近藤 哲夫 <平成30年4月> 博士(医学)
		基礎腫瘍学特論			基礎腫瘍学特論			基礎腫瘍学特論			基礎腫瘍学特論
兼任	准教授	小幡 誠 <平成30年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	小幡 誠 <平成30年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	小幡 誠 <平成30年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	小幡 誠 <平成30年4月> 博士(工学)
		高分子材料化学特論			高分子材料化学特論			高分子材料化学特論			高分子材料化学特論
兼任	准教授	横道 洋司 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	准教授	横道 洋司 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	准教授	横道 洋司 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	准教授	横道 洋司 <平成30年4月> 博士(医学)
		医療データ解析・臨床疫学特論 I 医療データ解析・臨床疫学特論 II			医療データ解析・臨床疫学特論 I 医療データ解析・臨床疫学特論 II			医療データ解析・臨床疫学特論 I 医療データ解析・臨床疫学特論 II			医療データ解析・臨床疫学特論 I 医療データ解析・臨床疫学特論 II
兼任	准教授	鳥 弘幸 <平成30年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	鳥 弘幸 <平成30年4月> 博士(工学)	兼任	教授	鳥 弘幸 <平成30年4月> 博士(工学)	兼任	教授	鳥 弘幸 <平成30年4月> 博士(工学)
		非平衡科学特論			非平衡科学特論			非平衡科学特論			非平衡科学特論
兼任	講師	石黒 浩毅 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	石黒 浩毅 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	石黒 浩毅 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	石黒 浩毅 <平成30年4月> 博士(医学)
		生命倫理学特論			生命倫理学特論			生命倫理学特論			生命倫理学特論
兼任	講師	幸田 尚 <平成30年4月> 農学博士	兼任	教授	幸田 尚 <平成30年4月> 農学博士						
		ゲノム科学特論			ゲノム科学特論						
			兼任	准教授	白井 隆之 <平成30年4月> 学士(理学)	兼任	准教授	白井 隆之 <平成30年4月> 学士(理学)			
					医工農総合特論			医工農総合特論			
						兼任	教授	鈴木 健文 <平成30年9月> 博士(医学)	兼任	教授	鈴木 健文 <平成30年9月> 博士(医学)
								生命倫理学特論			生命倫理学特論
						兼任	講師	神沼 修 <平成31年4月> 博士(獣医学)			
								ヘルスサイエンス特論 応用生体防御学特論			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(研)、実(研)、実(研)、実(研)、実(研)、実(研)、実(研)、実(研))、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- (兼任教員)
- ・鈴木章司 教授：昇任に伴い、准教授から教授に職名変更。
 - ・幸田尚 教授：山梨大学生命環境学部教授就任に伴い、兼任教員から兼任教員へ変更。
 - ・筒井宏彰 准教授：就任辞退により、白井隆之准教授に変更。

【令和元年度】

- (専任教員)
- ・舟根和美 教授：平成30年7月就任（平成30年6月教員審査済）。
 - ・中川洋史 准教授：平成31年4月助教から准教授に昇任（平成30年12月教員審査済）。
 - ・乙黒（小林）美彩 准教授：平成30年7月助教から准教授に昇任（平成30年6月教員審査済）。
 - ・幸田尚 教授：平成30年7月就任（平成30年6月教員審査済）。
 - ・神沼修 准教授：自己都合により専任教員辞任。平成31年4月より兼任教員へ変更。
- (兼任教員)
- ・風間ふたば 教授：副学長就任に伴い、職名に（副学長）を追加。
 - ・布村明彦 准教授：辞職により、鈴木健文教授に変更。
 - ・犬飼岳史 教授：昇任に伴い、准教授から教授に職名変更。
 - ・石平博 教授：昇任に伴い、准教授から教授に職名変更。
 - ・近藤哲夫 教授：昇任に伴い、准教授から教授に職名変更。

【令和2年度】

- (専任教員)
- ・谷本守正 教授：令和3年3月31日定年退職。
 - ・舟根和美 教授：担当授業科目に「食品加工・栄養学特論」を追加（令和2年2月教員審査済）。
 - ・笠井剛 准教授：自己都合により専任教員辞任。令和元年10月より兼任教員へ変更。
 - ・升井伸治 准教授：令和2年4月就任（令和2年2月教員審査済）。
- (兼任教員)
- ・鈴木章泰 教授：定年退職。
 - ・風間ふたば 教授：自己都合により、就任辞退。兼任教員 神田浩史講師、緒方隆二講師に変更。
 - ・北村健一郎 教授：自己都合により、就任辞退。
 - ・柏木賢治 教授：昇任に伴い、准教授から教授に職名変更。
 - ・三井貴彦 教授：昇任に伴い、准教授から教授に職名変更。
 - ・鳥弘幸 教授：昇任に伴い、准教授から教授に職名変更。
 - ・白井隆之 准教授：自己都合により、就任辞退。
- (兼任教員)
- ・神沼修 講師：自己都合により、就任辞退。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **課外で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
4	3	4
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
17	15	0	4	36	0	18	16	0	2	36	0
(17)	(15)	(0)	(4)	(36)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
34	0	2				34	0	2			
(34)	(0)	(2)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
18	16	0	2	36	0	18	16	0	2	36	0
[1]	[1]	[0]	[Δ2]	[0]	[0]	[1]	[1]	[0]	[Δ2]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
34	0	2				34	0	2			
[0]	[0]	[0]				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{36}{36} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{36} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	准教授	神沼 修	H31.3	必修	ヘルスサイエンス特論	①	H31.3.31付け自己都合（広島大学原爆放射線医科学研究所教授採用）のため辞任（元）						
				必修	生命工学特別演習Ⅰ	①							
				必修	生命工学特別演習Ⅱ	①							
				必修	生命工学特別研究Ⅰ	①							
				選択	応用生体防御学特論	①							
2	准教授	笠井 剛	R1.7	必修	ヘルスサイエンス特論	②	R1.7.31付け自己都合のため辞任（2）						
				必修	生命工学特別演習Ⅰ	①							
				必修	生命工学特別演習Ⅱ	①							
				必修	生命工学特別研究Ⅰ	①							
				選択	臨床生殖医学特論	②							
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)								
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
2	人	必修	10	科目	必修	9	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	12	科目	計	10	科目	計	2	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)								
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
2	人	必修	10	科目	必修	9	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	12	科目	計	10	科目	計	2	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{2}{36} = 5.55 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 一⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	谷本 守正	必修	生命農学特別演習Ⅰ	①	R2.3.31付け65歳で定年退職(2)			
			必修	生命農学特別演習Ⅱ	①				
			必修	生命農学特別研究Ⅰ	①				
			必修	生命農学特別研究Ⅱ	①				
			選択	食品加工・栄養学特論	①				
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)	②の合計数(b)	③の合計数(c)			
1	人	必修	4 科目	必修	4 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	1 科目	選択	1 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	5 科目	計	5 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

平成30年度に自己都合による退職者が担当していた科目については、専任教員を補充した。
 令和元年度に自己都合による退職者が担当していた科目のうち、ゼミ形式の科目については他の専任教員が対応している。また、オムニバス形式の科目及び単独で担当する科目については、専任教員を補充する予定であるが、当面は退職者本人が兼任で対応するため、履修上は影響ないと考える。
 令和元年度に定年による退職者が担当していた科目については、専任教員が担当している。
 学生に対しては、ホームページ及びガイダンス等で周知済である。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (平成29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<医工農学総合教育部 統合応用生命科学専攻（博士課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	新型コロナウイルスの影響により学年暦を変更したが、オンライン授業等により計画どおり実施している。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

【全学組織】

大学教育センターFD部門（別紙1「大学教育センター細則」、別紙2：「大学教育センター部門要項」）

【医学域】

医学部キャンパス教育FD委員会（別紙3：「医学部キャンパス教育FD委員会規程」）

【生命環境学域】

生命環境学域FD委員会（別紙4：「生命環境学域各種委員会規程」）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

【全学組織】

大学教育センターFD部門打合せ会議 3回（令和元年6月3日開催、令和元年10月15日～10月18日メール会議、令和元年10月31日～11月6日メール会議）委員11名

【医学域】

医学部キャンパス教育FD委員会 3回（令和元年6月10日（月）開催、令和元年8月20日～26日メール会議、令和2年1月23日（木））委員8名

【生命環境学域】

生命環境学域FD委員会1回（令和元年11月1日～8日メール会議）委員5名

c 委員会の審議事項等

【全学組織】

全学教育FD研修会の年度テーマ・計画・実施内容について、オンラインFD、教員参加率向上方法の検討等

【医学域】

教育FD研修会の計画・実施・認定等について

【生命環境学域】

FD研修会の計画・実施内容の検討等について

② 実施状況

a 実施内容

【全学組織】

・全学教育FD研修会の開催

【医学域】

・医学域教育FD研修会の開催

【生命環境学域】

・FD研修会（生命環境学域、各学系・学科）の開催

b 実施方法

【全学組織】

全学教育FD研修会（年7回実施。Moodleを利用したオンラインでの研修会記録動画配信も実施した。）

【医学域】

医学部キャンパス教育FD研修会（年4回実施）

【生命環境学域】

生命環境学域FD研修会（年3回実施）、各学系・学科FD研修会（年2回程度実施）

c 開催状況（教員の参加状況含む）

【全学組織】

- ・全学教育FD研修会「内部質保証システム説明会」令和元年6月13日、令和元年6月20日、令和元年6月26日開催 220名参加
- ・全学教育FD研修会「反転授業とアクティブラーニングの実践事例報告会」令和元年7月24日開催 55名参加
- ・全学教育FD研修会「Moodle講習会」令和元年9月24日、令和元年9月27日、令和元年11月27日、令和2年2月13日開催 70名参加
- ・全学教育FD研修会「内部質保証システムと数理・データサイエンス教育」令和元年10月3日開催 79名参加
- ・全学教育FD研修会「山梨大学優秀教育賞受賞記念講演」令和元年12月3日開催 42名参加
- ・全学教育FD研修会「発達障がいを抱える学生への指導・対応について」令和元年12月19日開催 62名参加
- ・全学教育FD研修会「緊急対策としての授業のオンライン化」令和2年3月24日～令和2年4月3日開催（オンライン実施）81名参加

【医学域】

- ・教育FD研修会「Post-CC OSCEの基礎知識 ～2019年全国トライアル 2020年正式実施に向けて～」令和元年5月8日開催 47名参加
- ・教育FD研修会「慈恵医大の医学教育カリキュラム」令和元年7月18日開催 20名参加
- ・教育FD研修会「カリキュラム改正に向けた現行カリキュラムの検討」令和元年9月6日 23名参加
- ・教育FD研修会「医学教育 - その社会的責任 - 」令和2年2月12日開催 23名参加

【生命環境学域】

- ・生命環境学域FD研修会「山梨大学内部質保証システムについて」令和元年6月13日開催 55名参加
- ・生命環境学域FD研修会「安全保障輸出管理について」令和元年12月5日開催 52名参加
- ・生命環境学域FD研修会「Moodleの利用について-実例紹介-」令和2年2月13日開催 55名参加

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

FD研修会を通じて、現状の課題に関し、教員間で情報交換、意見交換を行い、講義の調整・工夫の共有、学生の理解度、関心度等を共有し、翌年度以降に反映することとしている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

年2回（6月～8月、12月～2月）実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

結果表を担当教員あてに送付している。学生に対しては公開していない。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学では、平成24年度に農学系学部「生命環境学部」を設置し、「自然と社会の共生」をテーマに文理融合・医工農融合の学士教育を行ってきた。平成28年度には農学系修士課程「生命環境学専攻」を設置し、学士教育の理念を引き継ぐとともに、人類にとって最も普遍的で重要な課題である「食と健康」及び「生命と環境」をテーマに修士教育を行ってきた。この流れを受けて、地域の農学教育へのニーズに応えるべく、学士-修士-博士の一貫した農学系教育体制を整備することとし、博士（農学）の学位を授与できる生命農学コースを含む医工農連携の博士課程「統合応用生命科学専攻」を平成30年度に設置した。

統合応用生命科学専攻では、農学、医学、生命工学の3分野が生命科学を学術研究の基盤として連携し、微生物、動物、及びヒトの生命現象を分子、細胞、組織、及び個体レベルの複合的視野から探求する。医工農の知識の「統合」と技術の「応用」により、人類にとって最も普遍的な価値をもつ「健康」をテーマとして高度な博士教育を行い、社会の発展及び人類の福祉に貢献する人材（高度専門職業人及び研究者）を育成する。

設置計画に従って適切に専攻の運営がなされるよう、平成29年9月に統合応用生命科学専攻設置準備WGを設置し、専攻の組織運営及び学務に関わる規程や内規の制定、履修規程や時間割等を策定した。また、大学院博士課程（医工農学総合教育部）と統合応用生命科学専攻の共通科目がスムーズに実施されるよう、学域を越えて関係教職員による会議を開催し、「履修申告>講義実施>履修状況のモニタリング>成績評価」のスキームを確認し、医工農の連携教育の円滑化を図った。

平成30年度は、10人の定員に対し11人の入学者を迎え、定員充足を達成することができた。大学院博士課程の共通科目である「科学者倫理学」「医工農総合特論」及び専攻共通科目の「統合応用生命科学特論」「ヘルスサイエンス特論」は計画どおりに実施され、適切な成績評価がなされた。これらの共通科目により、科学者としての倫理観、医工農の3分野を俯瞰する知識、生命科学の統合力が涵養された。「指導教員グループ」（主指導教員1名、副指導教員2名）が組織され、複数教員の指導のもと博士論文の作成のための専門的な研究が行われた。

平成31年度は、10人の定員に対し14人の入学者を迎え、定員充足を達成することができた。また、学位論文の評価基準の公表が義務付けられたことに伴い、各コースの評価基準を作成した。特別研究派遣学生として、国内外の大学・研究所で研究指導を希望する学生もあり、これらを許可した。コースのグローバル化・多様化を図る上でも良い方向性であると評価している。

令和2年度は12名の入学者を迎え、平成31年度に続き、定員を充足することができた。令和2年度も、社会人特別選抜により入学した学生があり、社会人からもニーズがある専攻であることが確認できた。

以上のことから、統合応用生命科学専攻は設置計画どおりに順調に運営されていると総括される。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和3年6月頃 公表

b 公表方法

・大学ホームページ及び生命環境学域ホームページに公開予定（令和3年6月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・令和3年度に独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の期間別認証評価を受ける予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [令和3年3月公開予定]

c 公表方法 [大学ホームページへ掲載]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

○ 山梨大学大学教育センター細則

制定 平成27年 7月28日
改正 平成29年 3月27日
平成31年 3月27日

(趣旨)

第1条 この細則は、国立大学法人山梨大学基本規則第38条第2項の規定に基づき、山梨大学大学教育センター（以下「センター」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、山梨大学（以下「本学」という。）における、教育方法の改善や教育の質保証のための取組みを企画し実施することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 教育の質保証に関すること。
- (2) 教育評価に関すること。
- (3) 全学的なFDの企画立案、実施及び評価に関すること。
- (4) 教育環境の情報化に関すること。
- (5) 他機関との教育連携に関すること。
- (6) その他第2条の目的を達成するために必要な事項

(部門)

第4条 センターに次の部門を置く。

- (1) FD部門
- (2) 教育ICT部門
- (3) 教学IR部門
- (4) 教育改善部門

2 部門に関し必要な事項は、別に定める。

(組織)

第5条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) 協力教員
- (4) その他必要な職員

(センター長)

第6条 センター長は、本学の専任教員の中から学長が指名する。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第7条 センターに、副センター長を置くことができる。

2 副センター長は、本学の専任教員の中から、センター長の推薦に基づき、学長が指名する。

3 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

4 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長の任期を超える

ことはできない。

(専任教員)

第8条 専任教員は、センターの業務を処理する。

(協力教員)

第9条 協力教員は、本学の専任教員の中から、センター長の推薦に基づき、学長が指名する。

(審議組織)

第10条 センターの管理運営に関する重要事項の審議は、山梨大学教育国際化推進機構協議会（以下「協議会」という。）において行う。

2 前項に規定するもののほか、センターの業務に関し必要な事項の審議は、山梨大学教育企画委員会において行う。

(センター連絡会)

第11条 センター長は、業務の遂行に必要な事項の検討及び調整を行うため、センター職員によるセンター連絡会を開催することができる。

(庶務)

第12条 センターに関する庶務は、教学支援部教務企画課において処理する。

(雑則)

第13条 この細則に定めるもののほか、センターの運営に関し重要な事項は、協議会の議を経てセンター長が定める。

附 則

1 この細則は、平成27年7月28日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

2 山梨大学大学教育センター規程（平成26年3月28日制定）は、廃止する。

附 則

この細則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成31年4月1日から施行する。

○ 山梨大学大学教育センター部門要項

制定 平成29年 3月15日

(趣旨)

第1条 この要項は、山梨大学大学教育センター細則（以下「細則」という。）第4条に規定する山梨大学大学教育センター（以下「センター」という。）の各部門に関し必要な事項を定める。

(業務)

第2条 各部門は、次の業務を、他の部門と相互に連携・協力して実施する。

- (1) F D部門は、細則第3条第3号に定める業務に関する事。
- (2) 教育 I C T部門は、細則第3条第4号に定める業務に関する事。
- (3) 教学 I R部門は、細則第3条第1号及び第2号に定める業務に関する事。
- (4) 教育改善部門は、細則第3条第1号、第2号及び第5号に定める業務に関する事。

2 前項の業務を円滑に実施するため、各部門は必要に応じて部門打合せ会議を開催する。

(構成員)

第3条 各部門は、次の者で構成する。

- (1) 部門長
- (2) 細則第5条第2号に定める専任教員
- (3) 細則第9条に定める協力教員
- (4) その他、センター長が必要と認めた者

(部門長)

第4条 部門長は、本学の専任教員の中からセンター長の推薦に基づき、学長が指名する。

- 2 部門長は、当該部門の業務を掌理する。
- 3 部門長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(雑則)

第5条 この要項に定めるもののほか、部門に関し必要な事項はセンター長が定める。

附 則

この要項は、平成29年4月1日から施行する。

○ 山梨大学医学部キャンパス教育FD委員会規程

制定 令和 元年 7月10日

(趣旨)

第1条 医学部キャンパスにおける教育の向上及び能力開発に関する恒常的な検討を行い、その質的充実を図ることを目的として、山梨大学医学部に、医学部キャンパス教育FD（ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。））委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、医学部キャンパスにおける次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 学部、大学院教育の組織的改善に関する事項
- (2) 教員の教育活動に係る専門能力向上のための企画及びその実施・評価に関する事項
- (3) 各部署で実施するFD活動の支援に関する事項
- (4) その他FD活動に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 総合医科学センター所属教員1名
- (2) 基礎医学系教員2名
- (3) 臨床医学系教員2名
- (4) 看護学系教員2名
- (5) その他委員会が必要と認めた者

(任期)

第4条 前条各号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 委員が欠員となった場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、医学部長が指名する。
- 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 4 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第6条 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、医学域学務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、令和元年7月10日から施行し、平成31年4月1日から適用する。
- 2 医学部キャンパス教育FD委員会要項（平成28年9月7日制定）は、廃止する。

○ 山梨大学大学院総合研究部生命環境学域各種委員会規程

制定 平成28年3月19日
 改正 平成28年5月19日
 改正 平成29年3月16日
 改正 平成30年4月12日
 改正 平成31年2月14日
 改正 令和 2年3月 6日

(趣旨)

第1条 この規程は、山梨大学大学院総合研究部学域運営会議要項第9条第2項の規定に基づき、生命環境学域各種委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

(委員会)

第2条 生命環境学域に、別表に掲げる委員会を置く。

- 2 委員会の運営に関する必要事項は、別表に定めるとおりとする。
- 3 各委員会の委員は、再任を妨げない。
- 4 委員に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。（入試委員会を除く。）
- 5 必要に応じ、別表以外の委員会を置くことができる。

(委員長)

第3条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(会議)

第4条 委員会は、構成員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が、必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、生命環境学域事務部生命環境学域支援課において処理する。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、各委員会が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 山梨大学大学院総合研究部生命環境学域各種委員会内規（平成27年1月15日制定）は廃止する。

附 則

この規程は、平成28年5月19日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成29年3月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月12日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則
この規程は、令和2年4月1日から施行する。

別表

委員会の名称	主な審議事項	組織	任期	委員長
入試委員会	・入学試験に関する事項（大学院を除く）	各学科 教授1名 准教授1名（特に必要と認められた場合は2名）	2年 ※	委員の互選（教授）
教学委員会	・学生の教育に関する事項 ・学生の厚生及び補導に関する事項	各学科 教授1名 准教授1名（特に必要と認められた場合は2名、助教も可）	2年	評議員
広報委員会	・広報に関する事項（入試広報を含む） ・ホームページの運営に関する事項	各学科2名	2年	評議員
自己点検・評価委員会	・自己点検・評価に関する事項	各学科 教授1名 なお、委員長所属学科は、教授、准教授のいずれか1名とする。	2年	評議員
FD委員会	・FD活動に関する事項	各学科1名	2年	評議員
予算委員会	・予算配分に関すること	学系長、副学系長	1年	学域長
就職支援委員会	・学生の就職支援に関すること。	各学科1名	2年	委員の互選
倫理委員会	ヒトを直接対象とした研究等について、ヘルシンキ宣言等の趣旨に照らして検討し、審査する。	各学科 教授1名	2年	評議員
生命環境学部附属農場運営委員会	・附属農場の運営に関する事項	農場長補佐 各学科1名	2年	農場長
大学院入試委員会	大学院の入学試験に関する事項	各コース2名	2年	評議員
大学院教学委員会	・大学院学生の教育に関する事項 ・大学院学生の厚生及び補導に関する事項	各コース 教授1名 准教授1名（特に必要と認められた場合は2名、助教も可）	2年	評議員又は委員の互選（教授）
毒物及び劇物等管理委員会	・毒物及び劇物等の管理に関すること。	各学科及びワイン科学研究センター教員から1名	2年	全学の管理専門委員会委員
入学者選抜方法検討委員会	・入学者選抜方法に関すること	各学科1名	1年	評議員
小論文問題作成委員会	・入学者選抜に係る小論文の問題に関すること	各学科2名 （必要に応じて委員を追加することができる。）	2年	委員の互選（教授）

※入試主担当等の状況に応じ1～3年の範囲で委員の任期を定めることを可とする。